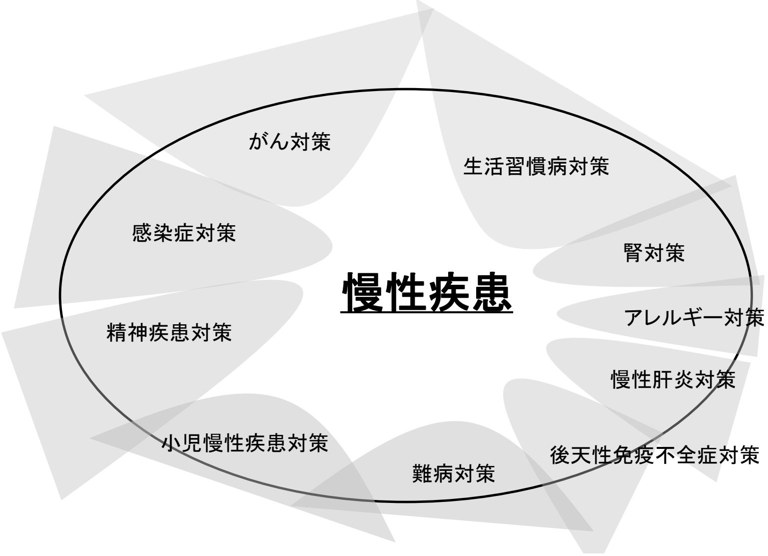
資料3

第2回慢性疾患対策の更なる充実に向けた検討会

慶應義塾大学　戸山芳昭

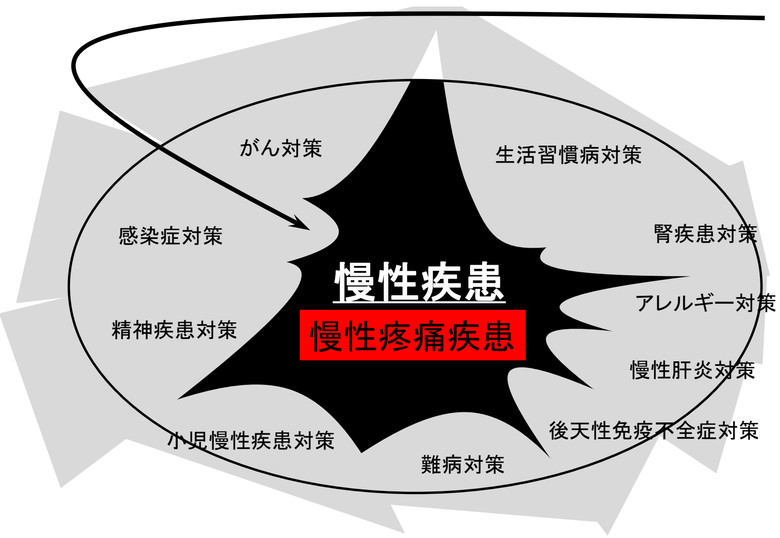
平成21年7月15日

行政から慢性疾患へのアプローチ



行政から慢性疾患へのアプローチ

～　個別の行政施策があまり行われていない領域～



3

“the Decade of Pain Control and Research” “痛みの10年” (2001-2010)

- 1998-1999年の全米における実態調査により、程度の<u>高い慢性痛に悩む患者が成人人口の9%を上っていた</u>。
- 無効な治療やドクターショッピングによる医療費の浪費、痛みによる就労困難などによる社会経済の損失は年間約650億ドル（9兆円）と推計された。

2000年、米国議会は

「痛みの10年」(**Decade of Pain Control and Research**)宣言を採択

- 米国全土にわたる慢性痛の実態調査、痛みの評価と治療基準の作成・実施
- 医師の再教育、痛みを見直す国民週間の設定など
- 痛みを体温、血圧、心拍、呼吸数に続く五つ目のバイタルサインとし、全ての患者に対し、痛みを評価する。

4

愛知医科大学医学部ホームページより引用

痛みの定義（国際疼痛学会　1985年）

Descartes, R. (1644)

痛みとは組織の実質的あるいは、潜在的な障害に結びつくか、このような障害をあらわす言葉を使って述べられる不快な感覚、情動体験である

慢性疼痛とは

急性疾患の通常の経過あるいは創傷の治癒に要する妥当な時間を超えて持続する痛み

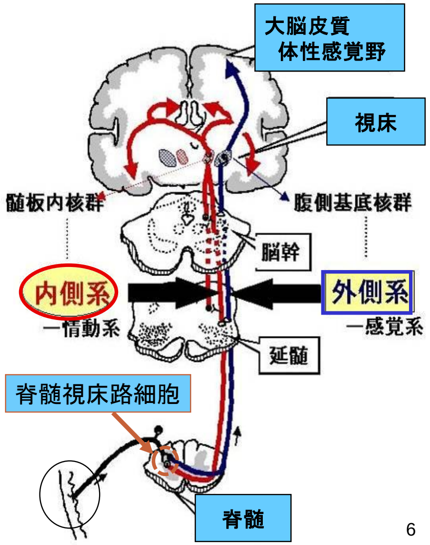
痛みの伝達と慢性化

①鋭い痛み
②じ～んとする不快な痛み

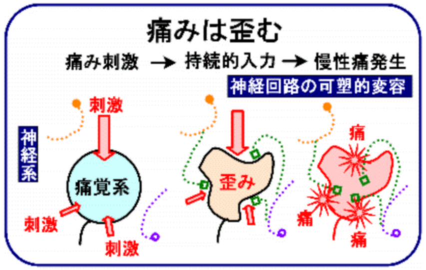
約20分

③次第に足がじんじんしてくる
④痛みの慢性化

（脊髄や脳での痛みの記憶）



慢性痛の発生機序



長期間持続的に発せられた「痛み」信号は、「痛み」の原因であった病巣が治癒した後も一種の記憶として神経回路に残ってしまい、信号を発し続ける可能性がある。

⇩

「痛み」を放置すると更なる複雑な「痛み」（慢性痛）を作ってしまう。

慢性疼痛を来す疾患

慢性疼痛疾患（骨・運動器疾患、神経障害）

- 変形性脊椎症
- 頸肩腕症候群
- 骨粗鬆症
- 関節リウマチ・膠原病
- 帯状疱疹後神経痛
- 糖尿病性神経障害
- など

機能性身体症候群

- 線維筋痛症
- 過敏性大腸症候群
- 慢性疲労症候群
- 複合性局所疼痛症候群
- 緊張性頭痛
- 非特異的胸痛
- 閉経後症候群
- 低髄液圧症候群
- など

心因性疼痛（うつ状態）

筋骨格系疾患による主な社会的損失と慢性疼痛の対策の必要性

身体面

外傷、術後、炎症、組織・神経の損傷、ADL低下、他臓器疾患の併発

慢性疼痛

診療科を超えた全人的観点からのアプローチが必要

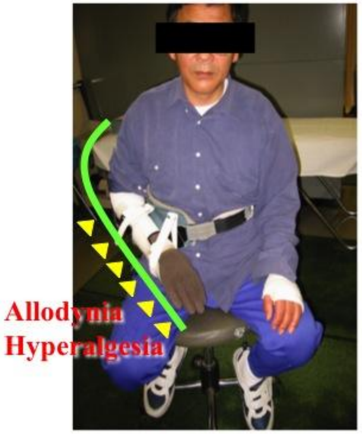
社会生活面

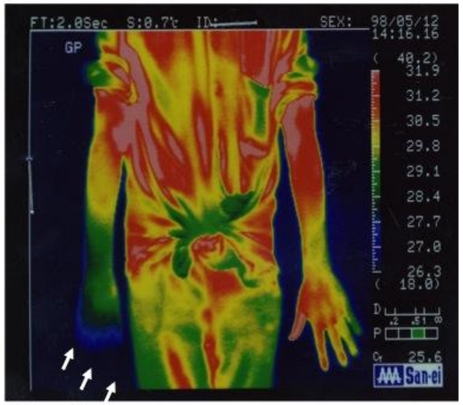
家族関係の悪化、仕事上・経済的問題、訴訟、社会的ひきこもり

精神心理面

ストレス、不快、不安、怒り、不眠、うつ状態、自殺など

複合性局所疼痛症候群：**56歳　男性**



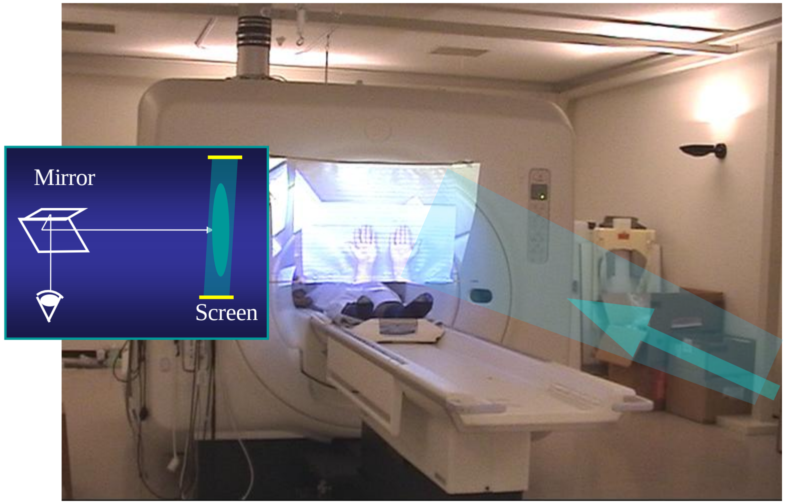


Low skin temperature

Thermogram

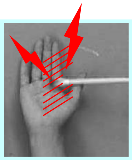
愛知医科大学牛田先生より

Experimental Setup



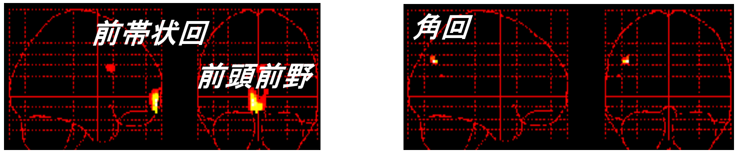
11

仮想痛みビデオを観たときの脳反応

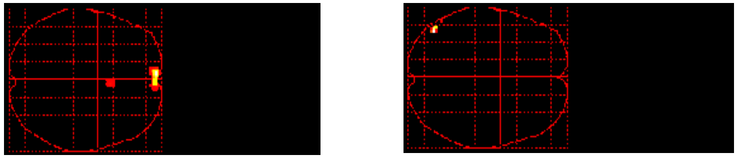


アロデニア患者

健常ボランティア



アロデニア患者はビデオを観るだけで非常に強い不快感を経験する

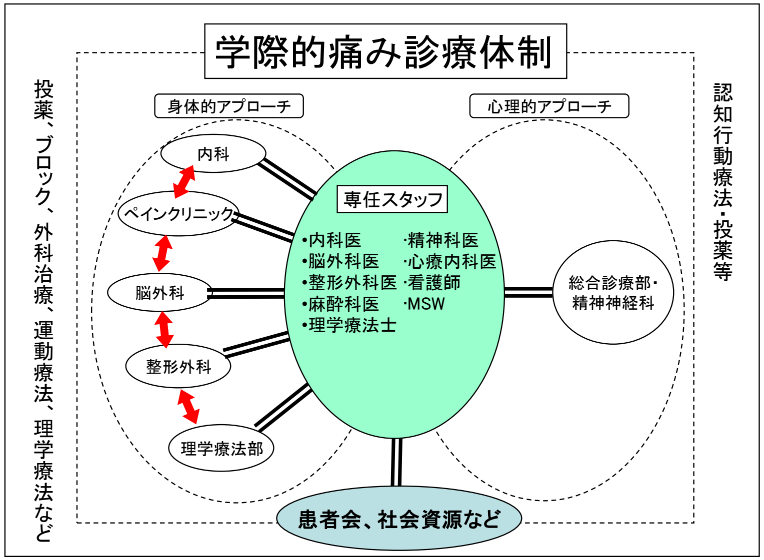


愛知医科大学牛田先生より

12

今後の痛み医療に必要な事

- 正確な器質的診断
  - 現時点での器質的治療の限界を整理すること
  - 適切なインフォームド･コンセントを行うこと

    →**適切な治療で慢性化させない**
- 器質的疾患があってもコントロールする方法の確立
  - 骨関節の変形があっても皆が痛いわけではない
  - 器質的に痛みがあることと、不快･不安による障害のコントロールは別(**痛みだけ除くのではなく、よりよいQOLが最終目標)**
- 患者の心理的要因について理解し、器質的要因との関わりも含む正確な診断ができること
  - 治療できない患者などへの方向付けの確立
- 患者の社会生活面との緊密な関わり
  - 患者会、マスコミとの積極的な情報交換

全人的な観点からの痛み患者のアセスメント法の開発